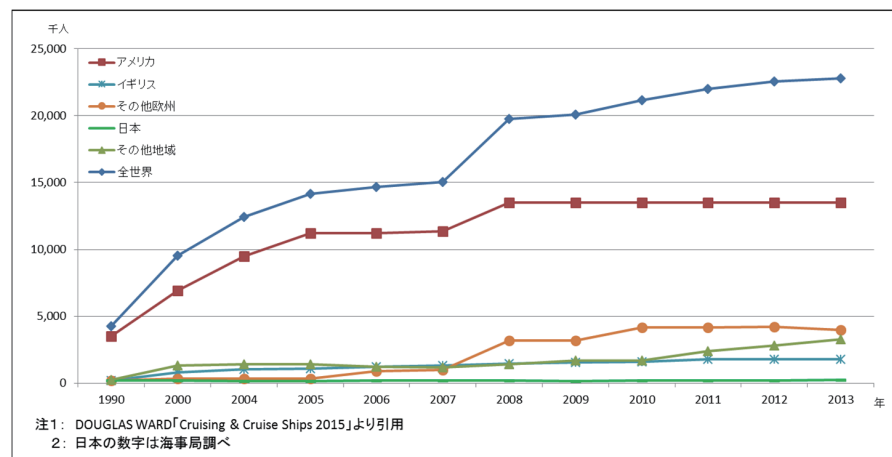


第2節 クルーズ

(1) 我が国を取り巻く世界各国のクルーズ状況

2013年の世界のクルーズ人口は、1990年の約4.9倍(約2,280万人)に増加したが、2013年の我が国におけるクルーズ人口は約24万人と、世界全体の約1%を占めるに過ぎない。特に、クルーズ先進国である米国と比較すると極めて少ない数値にとどまっており、近年もほぼ横ばいの状況が続いている。

図表Ⅱ-1-37 世界のクルーズ人口の推移



(2) 日本人のクルーズの利用状況

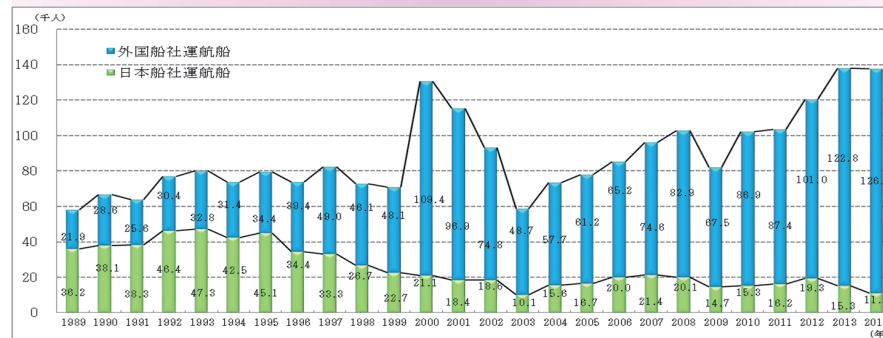
2014年の我が国のクルーズ人口[※]は23.1万人(前年比2.9%減)となった。このうち、外航クルーズについて見ると、日本船社が運航する外航クルーズの乗客数は1.1万人(同28.1%減)であったが、外国船社が運航するクルーズの乗客数は12.7万人(同3.3%増)と過去最高を記録し、合計では13.8万人(同0.2%減)となった。

日本人のクルーズ利用者のエリア別のシェアを見ると、アジアが50%と前年の40%から大幅に増え、続いて北欧・バルト海の14%、地中海の11%と続いている。

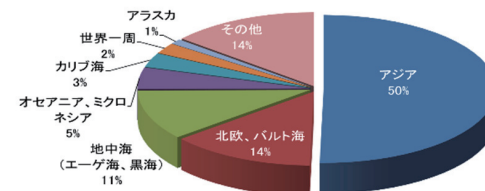
なお、外航クルーズ全体の泊数は123万人泊と、2013年の102万人泊と比べて増加し、平均泊数も8.9泊と、前年の7.4泊よりも長くなっている。

※クルーズ人口: 外航クルーズと内航クルーズを合わせた日本人乗客数。船内1泊以上を対象とし、日帰りクルーズを除く。内航クルーズの乗客数は、日本籍外航クルーズ船による内航クルーズの乗客数に、1997年より内航フェリーによるクルーズの乗客数を含めている。

図表Ⅱ-1-38 外航クルーズ船の日本人乗客数の推移



図表Ⅱ-1-39 外航クルーズエリア別の日本人乗客数のシェア (2014年)



(3) 外国船社による大型クルーズ船時代の到来

2013年から外国船社が運航する10万トンを超えるような大型の外航クルーズ船による日本発着クルーズが本格的に始まったが、2015年も米国のプリンセス・クルーズの「ダイヤモンド・プリンセス(115,875トン、乗客数:2,706名)」等が日本発着のクルーズを行っており、外国船社による日本発着クルーズが定着しつつある。

アジアへ配船される船は、クルーズ発祥の地であるカリブ海に配船されていた船が新船就航等によりドロップアウトする際に、新たなエリアとして配船されるパターンが一般的であったが、2014年11月に就航した米国のロイヤル・カリビアン・インターナショナルの「クァンタム・オブ・ザ・シーズ(167,800トン、乗客数:4,180名)」は、新造船でありながらアジアに配船されており、クルーズ利用客が増加するアジアへの注目が一層高まっている。



クァンタム・オブ・ザ・シーズ



展望カプセル「ノーズ・スター」

写真提供: ロイヤル・カリビアン・インターナショナル